

2022年度第1四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

日時 : 2022年8月12日（金）16時00分～17時00分
当社出席者 : 常務取締役 古川敏之、常務取締役 大治良高

主な質疑応答 :

【全体】

- Q) 特に大きく営業利益が上振れたセグメントは何か。
A) ほぼ全て時計事業の増益。円安による増益効果も含まれているが、それ以上に実質の営業利益増加が大きく寄与した。
- Q) 棚卸資産の増加要因について。
A) 主に為替の影響による増加。工作機械事業については部品在庫、仕掛かり在庫が増えている状況にあり実質的にも増加しているが、受注に紐づいておりリスク要因があるとは見えていない。

【時計事業】

- Q) 国内市場の第1四半期業績結果と足元の状況について。
A) 4-5月は回復も見られていたが、オミクロン株の影響が広がり厳しくなった。猛暑もあり人流が大きく落ち込み、販売にブレーキが掛かった。価格帯別では高価格帯の The CITIZEN、CAMPANOLA が好調。中価格帯も中価格帯の中で高めの製品が良かった。一方で普及価格帯は厳しかった。通期では回復に向かっていくと期待している。
- Q) 北米市場の状況について。金利上昇等により今後市場が弱含むのではないか。
A) 第1四半期は好調に推移し、想定以上に力強く売り上げが伸びた。一方でインフレなど様々な懸念材料を抱えており、不確定要素が多い。第2四半期以降はある程度慎重に見ざるを得ないと思っている。
- Q) 欧州市場好調の背景について。
A) インフレやウクライナ情勢など懸念材料が多い中で、時計販売は想定以上に進んだ。イギリス、ドイツ、スペイン、フランスなどが特に伸長。フランスは新規店舗の開拓もできた。
- Q) 中国市場の見通しについて。
A) ゼロコロナ政策の影響により今後も弱含みの状況が継続する見通し。隔離期間や移動制限が緩和されるなど、経済再開の動きが出ているので回復方向にはあるものの、上期中の回復は厳しい見通し。

【工作機械事業】

Q) 部材不足の状況について。

A) 部材調達の遅延状況は改善していない。中国市場におけるロックダウンにより電子部品系の入手がさらに厳しくなった。受注残は増加傾向にあり、モメンタムは変わっていない。リードタイムはさらに伸びており、標準品で10ヵ月程度。特殊オプション品はそれ以上になっている。

【デバイス事業】

Q) デバイス事業の苦戦についてどのような改善策を考えているか。

A) 照明用LEDの減収が大きかった。顧客側の在庫調整に時間が掛かり、上期までは厳しい状況が続く見通し。下期からはどの程度のスピードで回復できるか、様子を見る必要がある。自動車部品は国内向けが不振。エンジン向けなど収益性の高い部品がマイナスとなり収益を圧迫した。費用を抑制しながら、下期以降の売上回復を待つ。

以 上